

里親不調を防ぐ里親ソーシャルワークとフォスタリング —複線径路等至性アプローチ (TEA) による里親不調事例分析からの考察—

○ 大阪公立大学 伊藤 嘉余子 (3930)

キーワード：里親ソーシャルワーク・里親不調・複線径路等至性アプローチ (TEA)

1. 研究目的

2017年施行の改正児童福祉法では、社会的養護における措置先を検討する際に「より家庭に近い養育環境を提供できる選択肢」を優先的に検討する方向性が示された。また同年8月の「新しい社会的養育ビジョン」では、里親委託率の向上が目標の一つとして掲げられ、全国的に里親委託率は緩やかではあるが上昇傾向にある。その一方で、里親に委託された子どもが、里親側の事情や意向によって措置解除/措置変更となるケースも増加してきている。そこで本研究では、里親不調による委託解除を防ぐために必要となる支援について明らかにすることを目的とした事例分析を行った。

2. 研究の視点および方法

自治体からフォスタリング業務を委託されているフォスタリング機関に勤務する里親支援ワーカーに協力いただき、担当した「里親不調により措置解除に至った事例」について個別インタビューを実施した。調査時期は、1回目のインタビューが2019年1月～3月、2回目および3回目のインタビューが2019年11月～2021年3月の期間である（表1）。

（表1）調査協力者と分析対象となった事例の概要

		委託解除時の当該児の 年齢・性別	委託期間	措置解除理由	里親の状況等
Xさん (機関X)	事例1	13歳・男児	2年間	里父の身体的虐待	里父外国籍
	事例2	18歳・男児	8年間	里父の身体的虐待	里父→里母DV
	事例3	15歳・12歳男児	8年間	ネグレクト・経済困窮	里親登録後失職
Yさん (機関Y)	事例4	18歳・男児	9か月	子の非行による養育困難	専門里親
	事例5	12歳・女児	5か月	子の障害による養育困難	季節/養育里親
	事例6	2歳・女児	1か月	里親の育児不安と養育困難	養子縁組希望
Zさん (機関Z)	事例7	6歳・女児	4年間	子の障害による養育困難	季節/養育里親
	事例8	2歳・男児	6か月	里親の育児不安と養育困難	夫は里親未登録
	事例9	2歳・男児	1年間	子の特性による養育困難	祖父母も里親

3. 倫理的配慮

インタビュー内容は対象者の許可を得てデジタル録音機を用いて録音した。データの保管および調査過程の手続き、結果の公表等について事前に説明し同意を得た。本調査は大阪府立大学大学院人間社会システム科学研究科の倫理審査委員会の承認を得て実施した（2018年6月20日承認）。

（※当時の所属校では、倫理審査の承認日のみの記載で承認番号は付されていなかった）

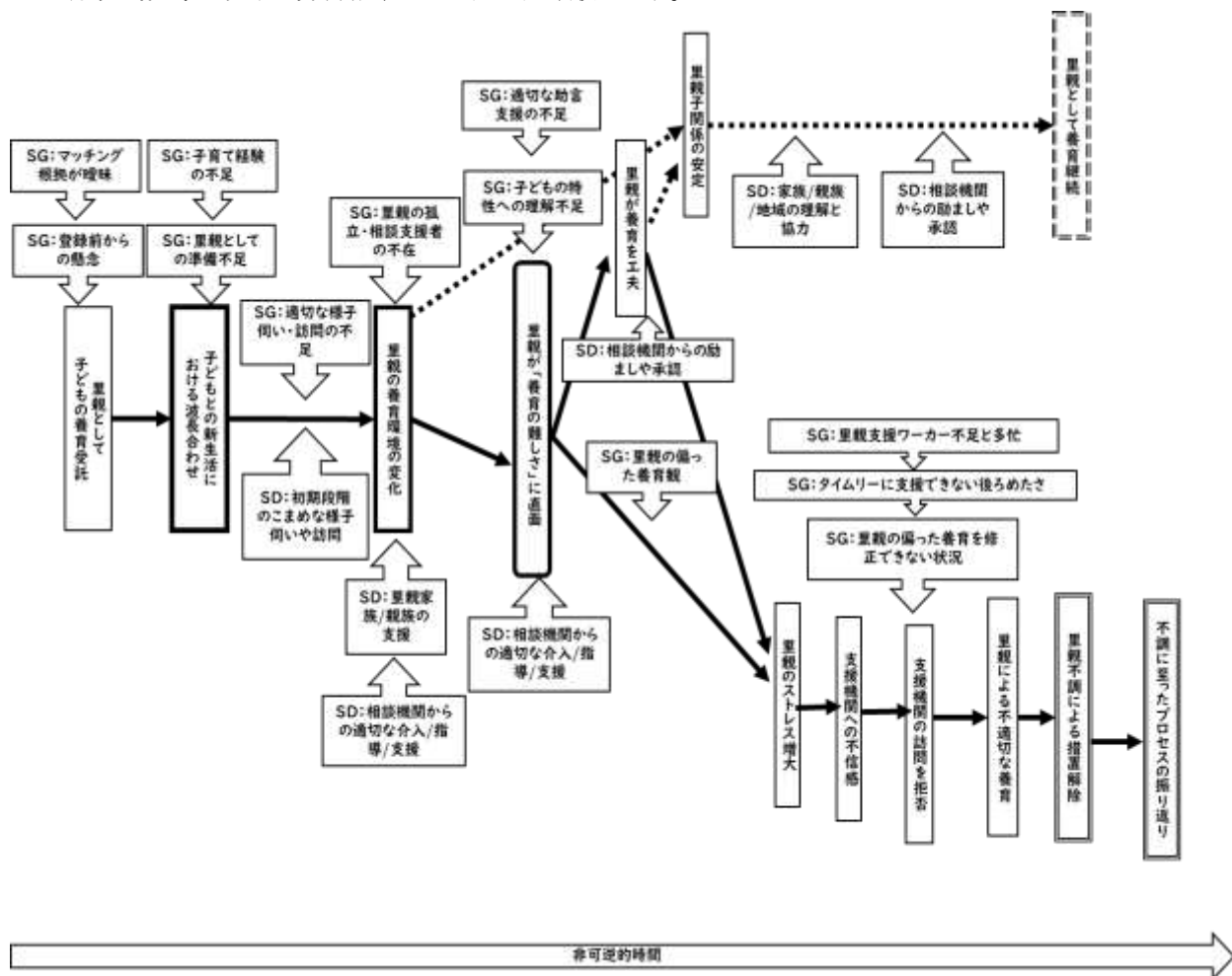
本研究では、複線径路等至性アプローチ（TEA：Trajectory Equifinality Approach）にて分析をおこなった。表2にTEAの用語と本研究における意味を示す。

(表2) TEA の用語と本研究における意味

TEA の用語	本研究における意味
等至点: EFP(Equifinality Point)	里親不調による措置解除
セカンド等至点: EFP2	不調に至ったプロセスの振り返り
両極化した等至点: P-EFP	里親としての養育継続
分岐点: BFP(Bifurcation Point)	里親が「養育の難しさ」に直面
必須通過点: OPP(Obligatory Passage Point)	OPP1: 子どもとの新生活における波長合わせ OPP2: 里親の養育環境の変化
社会的方向付け: SD(Social Direction)	里親への支援
社会的助勢: SG(Social Guidance)	里親支援の不足とそれに起因する里親と周囲の状況

4. 研究結果

以下に分析結果の TEM 図の簡略版を示す。



5. 考察

分析の結果、里親不調を防ぐ里親支援の課題として以下の点が示唆された。

- ・体制上の問題により必要な支援ができない 罪悪感からの確な助言指導ができない 葛藤
- ・登録前からワーカーが感じている違和感や懸念が里親不調につながっている現状
- ・里親の思考/意識/行動を変容する積極的な介入助言支援の必要性和関係づくりの重要性

※本研究は科研費：基盤研究 B（課題番号 18H00948）の成果の一部である。調査にご協力いただいた関係諸氏に深謝します。